

日本における医療 DX の活用と課題に関する共通認識

2025 年 6 月 30 日

1. 患者・国民を起点とした医療 DX・社会実装の推進

PHR 情報の利活用や革新的なデジタルツールの導入等を通じて、患者の利便性・納得感を高めるとともに、医療の質の向上を図る。医療 DX・社会実装の推進にあたっては、デジタルアクセスに課題を抱える層への配慮や患者・国民目線での情報発信、サイバーセキュリティの確保が重要である。

2. 医療情報の標準化・共有と EBPM の基盤整備

電子カルテ情報共有サービスやマイナ保険証を活用し、全国的な医療情報の標準化と相互運用性を確保する。医療の質・アクセス・アウトカム等の可視化を通じて、地域間格差の是正と EBPM を推進する。

3. 医療の構造改革と人材・信頼の基盤づくり

現場の業務負担軽減には技術導入だけでなく、制度的対応が不可欠である。また、ICT 導入支援だけでなく、医療従事者と生活者の双方に対するリテラシー向上、行動変容を促す教育設計、国民との対話を通じた信頼構築が求められる。

4. 産官学民連携・国際連携によるイノベーションの創出

公的データベースの仮名化情報等の利活用を可能とするシステム整備を進め、ユースケースの実証等を通じて、イノベーションを促進する。EXP02025 等の機会を活用し、医療 DX に係る国際的な協力・連携を推進する。

PHSSR サミット 2025 より強靱な保健医療システムの共創

第二部 医療 DX をどのように加速させるか

パネル 2 「日本における医療 DX の活用と課題」登壇者

市川 衛	医療の「翻訳家」／武蔵大学社会学部メディア社会学科准教授／ 一般社団法人メディカルジャーナリズム勉強会代表理事
内山 博之	厚生労働省医薬産業振興・医療情報審議官
津川 友介	カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) 医学部（内科）・ 公衆衛生大学院（医療政策学） 准教授／医師
中室 牧子	慶應義塾大学 総合政策学部 教授
福原 斉	一般社団法人 心臓弁膜症ネットワーク 代表理事
堀井 貴史	アストラゼネカ株式会社 代表取締役社長
（五十音順）	